
title: 【G検定】まとめノート（人物編） tags: G検定 author: ryotuxtuki slide: false

はじめに

G 検定に人物の知識が問われるわけで、~~カンペを作成~~知識を整理するためにメモを公開したいと思う。選択肢を削除する際に使えるメモにしたい。

ジェフリー・ヒントン

ディープラーニングの父。今は、トロント大学の教授で、Google Brain プロジェクトの研究者でもある。2006 年にはオートエンコーダや深層信念ネットワークという手法を提唱。ディープラーニングの基礎を築く。2012 年には人工知能を用いて画像の認識力を競うコンテスト、「ILSVRC」ではディープラーニング（AlexNet）を用いて圧倒的に優勝する。

アラン・チューリング

人工知能ができたかどうかを判定するテストである「チューリングテスト」を提唱。別の場所にいる人間がコンピュータと会話して、相手がコンピュータだと見抜けなければ知能があるとする。

アンドリュー・ング

「Google Brain」や「coursera」の立ち上げにたずさわる。今は Baidu 研究所に勤務。

ヤン・ルカン

Facebook の人工知能研究所やニューヨーク大学に勤務。LeNet と呼ばれる有名な CNN モデルを考えた。手書き数字を集めたデータセット「MNIST」を作った。GAN を高く評価した。

レイ・カーツワイル

未来学者で「シンギュラリティ」という人工知能が人間よりも賢くなる年が来ることを予見する。

ジョン・マッカーシー

パトリック・ヘイズとの共同論文でフレーム問題を提唱。余談だが、LISP 言語を作った人。

ジョセフ・アイゼンバウム

人工無能として有名な「ELIZA」を書き上げた人。

ジョン・サール

強いAI・弱いAIという用語を作った人。中国語の部屋という思考実験をする。

ロジャー・ペンローズ

『皇帝の新しい心』という著書の中で「強いAI」は実現できないと主張。

ダニエル・デネット

フレーム問題の難しさを伝えるために、ロボットのたとえを挙げた。

スティーブン・ホーキング

「人工知能の進化は人類の終焉を意味する」と発言。

イーロン・マスク

人工知能を研究する非営利団体の一つである「Open AI」の創業者の一人。人工知能に対して「人工知能にはかなり慎重に取り組む必要がある。結果的に悪魔を呼び出していることになるからだ。」という脅威論を述べる。

オレン・エツィオーニ

人工知能に対して「コンピュータが世界制覇するという終末論的構想は『馬鹿げている』としか言いようがない」と発言し脅威論をけん制した。

福島邦彦

CNN の原型ともいえる、単純型細胞と複雑型細胞の2つの細胞の働きを組み込んだモデルである「ネオコグニトロン」を提唱。

アーサー・サミュエル

機械学習を「明示的にプログラムしなくても学習する能力をコンピュータに与える研究分野」と定義した。

イアン・グッドフェロー

生成ネットワークと識別ネットワークからなる教師なし学習手法である**敵対的生成ネットワーク**を提唱した。ヤン・ルカンは GAN について「機械学習において、この 10 年間で最も面白いアイデア」とであると評価した。

デミス・ハサビス

DeepMind の設立者。